

関東学生フットボールにおける、オフENSEのプレー数と獲得ヤードの関係性 The relation of number of play to gain yard about college football league in Kanto.

1K07A091-2 小池 翔

指導教員 主査 堀野博幸 先生 副査 鳥居俊 先生

【目的】

近年、日本のカレッジフットボールはオフENSEの多様化が進んでいる。その理由としては2002年度に立命館大学がショットガンオフENSEを駆使して日本一となつて以来、ショットガンオフENSEが人気となった。2009年度から立命館大学はセットバックからのプロフォーメーションを復活させ、フットボールの原点である力を強調し、ベーシックなランプレーを軸としている。さらに、昨年度まで早稲田大学はいろいろなオフENSEプレーを展開して多彩とされてきたが、今年度はベーシックなランプレーを中心に試合を組み立て、安定したオフENSE力を発揮している。

そして、アメリカンフットボールにおいて数ある数値のなかでプレー数と獲得ヤードという計数データをもとに着目して考えていく。軸となるプレーを定め、プレー数を絞り精度で勝負するのか、多くの隊形・多くのプレーで相手を惑わしていくのか。その中でも最適なプレー数を調査し、これからのカレッジフットボールの進むべき道を示唆していきたいと思う。

【方法】

関東学生アメリカンフットボール1部リーグAブロックの法政大学の7試合・Bブロック出場校である駒澤大学、一橋大学、関東学院大学、立教大学、東京大学、中央大学、明治大学の全27試合の各チームのオフENSE計3563プレーを対象とした。エクセル2007を使用しスタツを作成し、それに基づき、プレーと獲得ヤードを抽出し、オートフィルタを使用してプレーを並び替え、プレー数をカウントして、グラフを作成し、割合をだしました。

【結果】

各大学の軸となるランプレー、ランとパスの比率を抽出しました。

表1 各校ごとの軸となるランプレーと平均獲得ヤード

	使用頻度1位 平均獲得ヤード	使用頻度2位 平均獲得ヤード	使用頻度3位 平均獲得ヤード	使用頻度4位 平均獲得ヤード	使用頻度5位 平均獲得ヤード
法政大学	lead option 8.73	ozone 7.73	power 7.11	blast 9.35	
早稲田大学	ozone 5.08	cuts 14.50	power 7.42		
明治大学	power 7.52	power 5.82	ozone 7.02	power option 6.6	lead option 11.75
中央大学	power 4.51	blast 5.31	cuts 7.23	power 7.17	lead option 8.4
立教大学	blast 5.93	power option 6.84	lead option 5.32	blast side op 9.17	power side op 7.5
一橋大学	power side 4.73	ozone 7.12	cuts 4.8	power 6.3	
関東学院大学	lead option 7	power 5.2	lead option 5.2		
駒澤大学	power 3.18	lead option 5.11	power 2.14		
慶応大学	lead blast 7	power option 5			

表2 東日本決勝出場校とリーグ戦上位校のランプレーとパスプレーの比較

	RUN	PASS	TOTAL
東日本決勝出場校	481	248	729
リーグ戦上位校	839	226	1065
TOTAL	1320	474	1794

表3 2010年度東日本代表決定戦決勝出場校 早稲田大学と法政大学の軸となるランプレーと全プレー数における割合

	使用頻度1位 割合	使用頻度2位 割合	使用頻度3位 割合	使用頻度4位 割合
早稲田大学	ozone 23	cuts 8	power 7	
法政大学	lead option 9	ozone 7	sweep 5	blast 5

【考察】

アメリカンフットボールにおいて、どういったオフENSEを展開しているチームが強いのかをまとめると、まずアメリカンフットボールにおいて、試合の主導権を握るのはランプレーである事が大前提である。その中で、どういったランプレーを展開しているチームが強いかというと、

1. 軸となるランプレーを3つ以上もっていること。
2. さらにその軸となるランプレーの平均獲得ヤードが4ヤード以上を記録していること。
3. 軸となるランプレーの中で極端に獲得ヤードが低いプレーがないこと。
4. オフENSEのコール全体として、あまりにもランプレーに頼りすぎていないこと。

の4つが、アメリカンフットボールにおいて、強いチームを作る為のオフENSEの条件であることが考察できた。